

# 令和5年度「北薩の教育」推進プラン

## 良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

### 国・県の動向等

- ・ 学校教育法
- ・ 学校教育法施行規則
- ・ 障害者差別解消法
- ・ 学習指導要領
- ・ 中央教育審議会答申
- ・ 県教育大綱
- ・ 県教育振興基本計画
- ・ 全国学力・学習状況調査等
- ・ 問題行動等調査
- ・ 人事評価制度
- ・ 不登校児童生徒への支援
- ・ 地域が育む「かごしまの教育」県民週間
- ・ 国体（令和5年度）実施

### 生きる力の確実な育成と信頼される学校づくり

#### 基本方針

- 1 児童生徒が「分かる」、「できる」を実感できる授業を実践し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育む「教育」の充実を図る。
- 2 学校・家庭・地域社会がそれぞれの特色を生かした教育を推進するとともに、三者が緊密に連携した「協育」の充実を図る。
- 3 北薩のよき伝統と教育風土を活用して、故郷（ふるさと）を学び、故郷（ふるさと）に学ぶ「郷育」を推進する。

《学校数》

校種	学校数		
	川薩	出水	計
公立幼稚園	8	9	17園
小学校	34	27	61校
中学校	11	14	25校
義務教育学校	1	1	2校
高等学校	4	5	9校
特別支援学校	0	1	1校
大学等	1	0	1校

	本地区教育の現状と課題	本地区教育の実践事項															
		実践の重点	数値目標等														
I 習 慣 本 的 形 成 生 活	◇ 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙（R4） ○ 朝食は9割超、定刻の起床は8割、就寝は9割ができています。 ▲ スマホやゲーム等の約束は約7割がだいたい守れているが、平日一日の使用時間3時間以上が約2割である。	○ 「北薩っ子 五つの実践」の推進 1 心を込めて、元気よくあいさつ 2 はきもののかかとそろえ 3 進んで手伝い 4 進んで体力づくり 5 早寝早起き朝ごはん	○ 「北薩っ子 五つの実践」 ・ 家庭・地域と連携した積極的な啓発・推進…100%														
II 確 かな 学 力 の 定 着	◇ 全国学力・学習状況調査（R4、4実施） 平均正答率（全国との差） <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>小6</td> <td>国語</td> <td>+0.4</td> <td>算数</td> <td>-0.2</td> <td>理科</td> <td>+3.7</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td>国語</td> <td>-2.0</td> <td>数学</td> <td>-6.4</td> <td>理科</td> <td>-1.3</td> </tr> </table> * 小学校は、全国と同等の結果であるが、中学校の特に数学が全国比・県比ともに大幅に下回っている。数学の更なる授業改善必要である。 ◇ 鹿児島学習定着度調査（R5、1実施） ○ 県平均を上回ったのは14教科中3教科、7割以上は7教科であった。2年前より県平均との差は大幅に縮まり、各学校の授業改善の効果が表れつつある。 ● 中学校では、1年の国語と数学が課題である。 ● 学校規模に関わらず、取組の成果が表れている学校と表れていない学校の差が大きい。	小6	国語	+0.4	算数	-0.2	理科	+3.7	中3	国語	-2.0	数学	-6.4	理科	-1.3	○ 「北薩の授業づくり3ポイント」による「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・ 思考力・判断力・表現力等の育成 ○ 「学力向上アクションプラン」の改善 ・ 「学びの羅針盤」「モデル学習指導案」「かごしま学力向上支援Webシステム」等の活用 ・ 「学カアップ推進会議」、「コアスクールプロジェクト」の充実 ○ 特別支援教育の充実 ・ 「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」の活用 ・ 「移行支援シート」の作成と活用 ・ 特別支援学級の自立活動の位置付け ○ ICTの効果的な活用や小・中連携した英語教育の推進	○ 鹿児島学習定着度調査…通過率県平均以上 全教科70%以上 ○ 全国学力・学習状況調査 ・ 課題と具体策の指導計画への位置付け…100% ・ 平均正答率…全国平均以上 ○ 重点課題 ・ 平均通過率…70%以上 <定着へのこだわり>
小6	国語	+0.4	算数	-0.2	理科	+3.7											
中3	国語	-2.0	数学	-6.4	理科	-1.3											
III 豊 か な 心 と たく ま し い 体 の 育 成	◇ 読書活動 ● 発達の段階に応じた読書の充実や家庭での読書の習慣化を図る必要がある。 ◇ 問題行動・不登校等 ● いじめの認知について啓発し、1件でも多く発見し、それらを解消していく必要がある。 ● 1人1台端末・スマートフォン等所持率が増加し、情報モラル等の一層の指導が必要である。 ● 不登校児童生徒数は増加傾向にあり、長期化したり、登校と不登校を繰り返したりしている。コロナ禍の影響による長期欠席もある。 ◇ 体力づくり ● 運動の日常化・生活化を図る工夫が必要である。特に、少年団や運動部活動に所属していない児童生徒への手立てが必要である。	○ 「朝読み、夕読み」の励行、読書の意義や楽しさの啓発 ○ いじめ・不登校等への適切な対応 ・ 「いじめ防止基本方針」の改善・推進 ・ 幼小、小中の協働及びSC・SSW等の活用による相談活動の充実 ・ スマートフォン等の家庭でのルール作りの推進 ○ 幼・小・中・高による連携の推進 ○ 道徳教育（「特別の教科 道徳」）の推進 ・ 全体計画別業作成、1単位時間の大要を示した指導計画の作成 ・ 「考え、議論する道徳」の授業実践 ○ 「命の教育」「がん教育」の推進 ○ 「一校一運動」「体力アップ! チャレンジかごしま」「一家庭一運動」の推進	○ いじめの問題…100%解消 ・ 早期発見・早期対応 ・ アンケートの適切な分析と活用 ○ 不登校 ・ 前年度より…1割減 ・ 新規…前年度比減 ○ 心の教育の日 ・ 道徳授業参観等…100% ○ 「体力アップ! チャレンジかごしま」 ・ 申告率…100% ○ 運動能力調査 ・ 課題と具体策の指導計画への位置付け…100%														
IV 学 校 特 色 あ る り	○ 地域の自然や人材、施設等を生かした特色ある教育活動が展開されている。さらに、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に実施する取組」を推進する必要がある。	○ 地域の特色や教育力を活用した教育活動の推進 ○ 「学校自慢づくり」の推進	○ 学校や郷土の特色を生かした体験活動…100% ○ 県民週間のポスター原画、標語への応募…100%														
V 学 信 校 頼 づ け ら れ る	○ 学校便りやHP・ブログ、新聞投稿等、積極的な情報発信がなされている。 ○ 「学校における業務改善アクションプラン」「鹿児島県部活動の在り方に関する方針」を推進する。	○ 積極的な情報発信の工夫（学校便り、ホームページ、新聞投稿等） ○ 服務規律に関する取組の一層の推進 ○ 広報活動の工夫、学校評価等の改善 ○ 「危機管理マニュアル」の改善	○ 定期的な発行、情報の更新、新聞等への応募…100% ○ 教職員の「業務改善が進んでいる」と実感:80%以上														